

薬之加減之事

- 一、人の久敷あつかひそむじたる馬の何病にても、其薬を飼べからず、とくと、さり、かうべし。其後病を治すべし
- 一、虫寸白には、なめらかなる事をきむじ、かつことを本とす
- 一、筋せうかちの類には、かつ事を禁ず、なめらかなるをもちゆ
- 一、老馬には薬を大ふくにつもりて薬の間をとを（遠く）飼べし
- 一、こま（駒）の病には、薬小ふくにつもり、薬のあいだ、ちかかるべし
- 一、寒の馬にはひる薬をかふべし
- 熱の馬には、まつ薬をかふべし

桑嶋新右衛門尉 仲綱

鈴木主膳介

道重

水沢清五郎

文禄四乙未 二月五日 実秀

青柳与六郎殿

進覧